



夢は叶えるも

私は身長152センチの映像作家です

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で4キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミンより情報局まで。

皆さん、初めまして。今村彩子です。縁があって今月から1年間、エッセイを執筆させていただることになりました。どんなことを伝えようかなどワクワクしています。まずは自己紹介を。私は桜満開の季節に生まれた未年の牡羊座でダブル羊です。でも、羊に似ていなく、体型は色黒で細い方です。和田アキ子とも同じ誕生日ですが、私の身長は152センチと小柄です。しかし、私は写真では背が高く見えるらしく、初めて会う人によく「ちっちゃ！」と驚かれます。

私は生まれつき耳が聞こえません。両耳に補聴器をはめていますが、外すと全く聞こえません。周囲がうるさい時は、補聴器を切って音のない世界へワープしています。

19歳の時、1年間アメリカへ留学し、映画制作を学びました。帰国後、愛知教育大学に復学し、ドキュメンタリーを撮り始めました。取材で大学を自主休講することが増え、先生から「あなたの本業は撮影ではなく、大学で学ぶことでしょう!」と怒られたことは、今は懐かしい思い出です。大学4年の時、就職活動でテレビ局をいくつか受けましたが、全滅。だったら、自分で作っちゃえ!と「Studio AYA」を設立。ドキュメンタリーを制作し、全国各地で上映・講演をしています。多くの方に支えられ、今年で無事に13年目を迎えます。

ろう・難聴者の存在を一人でも多くの人に知ってほしいという思いで、ろう学校や家族全員がろう者の家庭、聞こえない人と聞こえる人



映画「珈琲とエンピツ」



手話で語る3.11
宮城 被災ろう者の体験談



が働く職場などを撮りました。ろうのサーフィン店長を起用して制作したCMは日本民放連盟賞優秀賞、ギャラクシー賞をいただきました。東日本大震災が起きた時は、11日後に宮城に行き、被災した聞こえない人を取材しました。その後も取材を続け、DVD「手話で語る3.11」を制作し、被災ろう者の声や課題を伝えています。去年こなした講演は80回以上。今年も毎月平均4~5回ほど講演があり、全国を飛び回っています。震災前から撮り続けていた、ろうのサーフィン店長が主人公の映画「珈琲とエンピツ」は豊橋、東京、大阪、神戸の劇場で上映されました。このエッセイを書いている現在は、私の地元、名古屋の伏見ミリオン座で公開中です。

最近、講演先で「いろいろ活動していてすごいね」「小さくて細い体なのにどこからそんなエネルギーが出てくるの?」と、「私には真似できないわ~」というニュアンスで言われることが多くなりました。そういう質問や反応に私はいつも返答に困り、うーんと悩んでしまいます。私も皆と同じ人間で普通の生活をしているので。そして、最後にはお決まりの答え、「それはやはり好きだから」としか言えませんでした。

ある時、「なぜ私はドキュメンタリー制作を続けられるのだろうか。とても地道で苦しい作業でもあるのに…」と今までの軌跡を振り返ってみました。すると、夢を実現させ、継続する方法として5つのことをしていることに気づきました。エッセイで5つのことを織り交ぜながら、生い立ちや私が取材で出会った人々のことについてお話ししたいと思っています。1年間よろしくお願ひいたします。

夢は叶えるも

I M A M U R A . A Y A K O

新連載



映像の道に進むきっかけを作ってくれた父

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミンより情報局まで。

小学生時代の私は三度の食事よりも本が好きで、母から「ごはんよ。本は後にしなさい」としそう言っていました。本だけでは足りず、物語を書くようになり、将来の夢は童話作家でした。小学校低学年の時は、今と違つて体が大きく、かけっこはいつも一番。放課は腕相撲で男子を次々と負かし、クラスで一番でした。しかし、苦手なことがあります。それはコミュニケーションです。1対1の時は相手の口の動きを読み取って理解をするのですが、早口の人や口が小さい人の場合は何を言っているのかわかりません。大勢のおしゃべりやクラスでの話し合いはもうお手上げ。皆に合わせて笑ったり、うなずいたりしていました。心の中では、いつも「何?」「何を笑っているの?」とさみしい気持ちでいっぱいでした。「もう一回言って」と言うと雰囲気を壊したり、しつこいなと思われるのが怖くて、友達に本当の気持ちを言えませんでした。私だけガラス張りの個室にいるようでした。だから、確実に理解でき、楽しむことができる本の世界に夢中になり、物語を書くことでさみしさを紛らわせていたのかなあと、今思います。

家で家族と一緒にテレビを見ていても、私だけ楽しむことができませんでした。字幕がついていないからです。同じ家族なのに私だけ楽しむことができない。一つ下の弟が両親と楽しそうに笑うのを見て、ますます孤独が募りました。



小学校時代の筆者

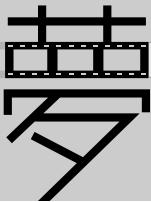
「どうして私だけ聞こえないの?」と、学校でも家でも悲しい気持ちでいっぱいでした。そんなある日、父がビデオレンタル店で洋画を借りてくれました。洋画は字幕がついているので、私も一緒に楽しめると思ったのです。初めて借りてくれたビデオは「E.T.」。言葉が通じない宇宙人E.T.と少年がだんだん心を通わせ、友情が芽生えていく物語に心があったかくなりました。また、家族と一緒にビデオを楽しめたことも嬉しく、幸せな時間でした。父は毎週ビデオを借りてくれました。私はいろいろな国の名画を見て育った…と書きたいところですが、父の好みがハリウッドのアクション映画なので、「ダイハード」や「ターミネーター」、「ロッキー」と体中を血が駆け巡るような映画がほとんどでした。映画が終わり、興奮で火照った顔で黒画面に白文字でエンディングロールが流れているのをぼーっと眺めていた感覚は今でも覚えています。

余韻に浸りながら、映画の最後に自分の名前が流れたらいいなと思うようになりました。私も映画を撮って大勢の人に元気や勇気を与えたい!と。父が借りてくれた洋画が私の今の仕事の決め手になったのです。そのきっかけを作ってくれた父は62歳。今はお互いに忙しく、ほとんど顔を合わせないのですが、伏見ミリオン座の上映最終日に見に来てくれました。私は舞台挨拶で、皆の前で父を紹介しました。観客席の父は「本当に頑張ったね」と泣いていて、私まで泣いてしまいました。

私も一緒に楽しめるようにと毎週ビデオを借りてくれたお父さん、今も映画制作を見守ってくれているお父さん、どうもありがとうございます。



父と弟と



I M A M U R A . A Y A K O

連載



夢は叶えるもの

母からもらった1冊の本

PROFILE

いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミより情報局まで。

中学時代、私は有松絞で有名な有松にある東陵中学校に入学しました。勉強も部活も頑張ろう!とバスケットボール部に入部。朝練があるため、6時半に家を出て歩くこと30分。朝練で汗を流し、授業後も日が暮れるまで練習して、帰宅。夕食後は睡魔と闘いながら、予習と復習をこなしました。小学校とは違い、中学校では教科ごとに先生が変わります。それぞれの先生の口の動きに慣れ、動きを読み取って内容を理解するのが大変になります。口の動きを読み取ることは読話(どくわ)と言い、集中力がいいります。集中できる長さは15分が限度。朝から夕方まで読話をすることで、目に相当な負担がかかることのはたやすく想像できるでしょう。更に勉強の内容も難しくなるので、ついていくには人一倍の努力が必要でした。負けず嫌いの性格で文武両道という言葉が好きな私は、いい成績をとろうと勉強も頑張りました。

しかし…ある日、クラスメートからいじめを受けるようになり、辛くて学校を休みました。1日休むと次の日学校に行きにくくなり、また休みました。翌日になるとますます行きにくくなり、休みました。心配した母は私を学校に連れて行こうとします。無理やり車に乗せられて、泣きながら学校に行ったこともあります。しかし、誰も私の気持ちを理解してくれる人はおらず、辛い思いをするだけ。私の周りは聞こえる人ばかりで、誰も聞こえない私の気持ちが分かる訳ない!と家族に対して



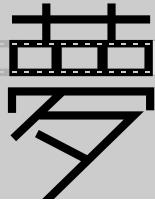
中学時代の筆者(写真中央)



も心を鉄の扉で閉ざし、3ヵ月間、家にひきこもりました。出口のないトンネルをさまよっているような日々で、死にたいと思ったことも何度かありました。

そんなある日、母が1冊の本を私にくれました。タイトルを見ると「私のアメリカ留学体験記」。ページをめくると、私と同じ聞こえない女性がアメリカの大学へ留学した経験が生き生きと描かれていました。彼女が留学したカリフォルニア州立大学ノースリッジ校は、アメリカで2番目に入る学生が多く、250人が在籍しています。講義には手話通訳がつき、聞こえる学生と一緒に学ぶことができます。何で夢のような環境なんだ!!!夢中になってページをめくり、あっという間に読破。読み終えた後もなかなか興奮から覚めません。小学生の時からビデオで見るアメリカは自由で広くて何でも叶う世界。憧れを感じていましたが、聞こえないから難しいだろう…と知らないうちに諦めていました。しかし、手話通訳付きで講義を受けることができる大学の存在を知り、心強く感じました。私もアメリカで勉強ができるんだ!アメリカに行きたい!アメリカで映画制作を学ぶんだ!と夢が生まれました。そして、英語を真剣に勉強するようになりました

何かに心が動いた時、心がふるえた時、希望が生まれ、夢が生まれます。私にとってそれは父が毎週毎週借りてくれた洋画、母がくれた1冊の本でした。子ども達には、小さい時からたくさん、たくさん、感動を経験してもらいたいなと思っています。



I M A M U R A . A Y A

K

連載



夢は叶えるもの

6冊の英語の交換日記

PROFILE

いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミより情報局まで。

高校生になった私はアメリカ留学を目指して、英語を一生懸命勉強しました。ろう者が英語を学ぶことは難しいため、教科の中で英語が一番好きと言うと驚かれます。ろう者の第一言語は手話で、日本語が第二言語となります。そのため、ろう者にとって英語は第三言語となり、まだ完璧に使いこなせていない日本語で英語を学ぶというと、もう頭が混乱してきます。私の場合は、小さい頃からたくさん本を読み、いつも物語を書いていたので、日本語が第一言語でした。

高2・高3の担任は英語教諭で、髪をひとつにまとめたおしゃれな先生でした。ある日、先生は英語の雑誌「TIMES」や英字新聞を机に並べて「自分の興味のある記事を読んでください。分からぬ單語が出たら辞書を引いてね」と言いました。私は映画関連の記事を選び、辞書を引きながら読みました。興味のある内容なので、意味が分かると嬉しくなります。辞書を引く面倒さよりも内容が分かる喜びの方が大きく、辞書を片手に様々な記事を読みました。

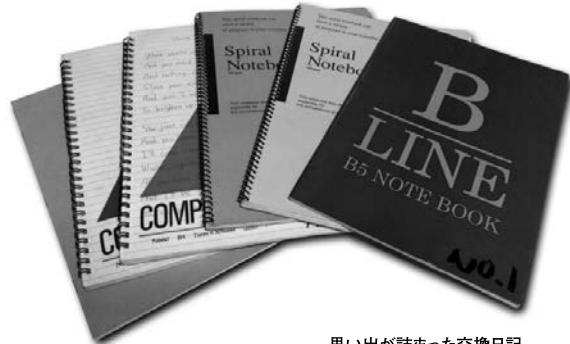
アメリカに行ったら、読むだけでなく書いて伝える力も必要だと考えた私は、あることを思いつき、新しいノートを開きました。しかし、英語で文を考えることができず、もどかしい思いをしながら、辞書や教科書の文を参考にして以下の文を時間をかけて書きました。

I make up my mind to keep a diary from today at least write one sentence. Please read and correct if I go wrong. Please write a comment, too, if you can.

(「私は今日から最低一文でも英語で日記をつけることを決めました。読んでみて、ミスがあったら正してください。もしできれば、コメントをつけてください」と書いたつもり)



思い出が詰まつた交換日記

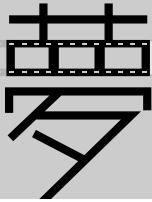


思い出が詰まつた交換日記

そして、先生に渡しました。先生は驚き、満面の笑顔で承諾してくれました。私は「今日1日作ったことを書こう!」と頭から英単語をひねり出し、書きました。ノートを先生に渡すと、翌日、次のページには先生の1日が英文で埋まっていました。私は嬉しくて楽しくて英語で日記を書いては、先生に渡しました。先生は「文法のミスを気にするよりも、内容が伝わればいいのよ」とおっしゃって、「彩子さん、頑張っているね」「彩子さん、よくできるね」「いいよー。その調子!」といつもほめてくれました。私はだんだん英語で考えて書けるようになり、思っていることや悩んでいることを2ページ、3ページと書くこともありました。高2の時に英検2級に挑戦し、一発で合格。先生との英語の交換日記は高校を卒業する日まで続きました。たくさんほめて励ましてくれた先生のおかげで、留学に必要な英語の力を身につけることができました。

今年もあと残りわずかとなりました。新年に向けて何かに挑戦しようと思っている方、何かを学ぶ時、力を伸ばしたい時は、どうしたら自分が楽しく学べるかを考えて実行することをお勧めします。そして、応援してくれる人を見つけましょう!壁にぶつかった時、落ち込んだ時、あなたの背中を押してくれます。

私の青くさい高校時代が英語で綴られている6冊のノートは私の宝物です。



★ ★ ★ ★ ★
I M A M U R A * A Y A

は叶えるもの

連
計

A black movie clapperboard with white diagonal stripes. The date '2013.1-2' is printed in the top left corner, and the word 'Scene' is followed by a large number '5' in the bottom right corner.

君はありのままでいいんだよ。環境を変えればいいんだ。

PROFILE



いまむら あやこ
今 村 彩 子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことをつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラみみより情報局まで。

愛知教育大学に入学した私は映画制作を学ぶために大学を休学し、1年間カリフォルニア州立大学ノースリッジ校(CSUN)に留学しました。CSUNはアメリカで2番目にろう者が多く在籍している大学で、2万人の学生のうち250人がろう者です。学内にろう・難聴学生をサポートするセンターがあり、アメリカ手話通訳やノートテイク(先生が話している内容をノートに書くこと)、パソコン通訳が提供されています。その様子を目の当たりにした私は何て素晴らしいのだろうと感動。そのことをアメリカの友人に伝えました。すると「当たり前だよ」と一言。「ええ? 当たり前じゃないよ。めちゃくちゃ恵まれているよ!」と驚いた私は言い返しました。「日本にはそんな大学、ほとんどないよ」と私が言うと、今度は友達が驚く番です。「えっ? ジャア、日本のろう学生は授業料は半額なの?」「いやいや、聞こえる学生と同じように払っているよ。」「だったら、授業の内容を100%知る権利があるでしょう!」なるほどー!! 目からうろこでした。ろう者はろう者、そのまでいいんだ! 必死に頑張って、聞こえる人に追いつく必要はないんだ。手話通訳をつけるなどして、環境を変えればいいんだ! と嬉しくなりました。

帰国後、愛知教育大学に復学した私は先生



留学時代の筆者。 友人たちと。

のところに行きました。「私が大学に入った目的は遊ぶためではありません。学ぶためです。授業に手話通訳をつけてください」とお願ひすると、先生は私の話を理解して下さり、検討するから待つようにと言いました。そして、多くの方

の協力のおかげで、2ヶ月後に手話通訳がつきました。

授業に初めて手話通訳がついた時の感動は今でも忘れられません。通訳者は先生の冗談や学生の発言も全て通訳します。通訳がつく前までは、ただ座って紙に書かれた文字を追っているだけでモノクロのようだった授業が立体的になり、色彩を帯び、生き生きと私の目、頭、そして心に飛び込んできました。「この先生は大阪弁を使うんだな」「あの学生はおとなしそうだけど、なかなか面白い考えを持っている」などと、小さいけれども今までの授業では気づかなかつたことがあり、何もかもが新鮮でした。ああ、私も皆と一緒に授業を受けているんだ!と喜びで胸がいっぱいになりました。

他の大学に通う友達に聞くと、ノートテイクや手話通訳を要望しても「自分の努力で乗り越えるように」と断られることが多いのだそうです。授業が終わった後、友人のノートをコピーするだけで、授業中は分からなまま座っていると聞いてショックを受けました。このままではいけない。きっと大学側もう学生に対してどのように情報保障すればいいのか、方法が分からないんだ。それなら、私が情報保障の取り組みをしている大学を撮ろう!と、いくつかの大学を取材し、DVD「ユニバーシティライフ」が誕生しました。現在、DVDは全国の大学やろう学校で活用されています。

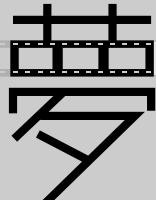
ユニバーシティライライフ

～3.9. 地震学生の素顔～



私たちは、この問題でなく、他の多くのヘビーメタル・バンドたちのように行動したのです。

DVD|ユニバーシティフィルム



I M A M U R A . A Y A

K

連載



夢は叶えるもの

聾学校の子ども達も恋愛したり、ケンカするんだよ

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミより情報局まで。

私が初めてビデオカメラで撮ったのは母校である豊橋聾学校です。耳の聞こえない子ども達が通う聾学校は、全国でいくつあると思いますか。ちなみに愛知県は名古屋に2校、一宮、岡崎、豊橋に各1校の計5校です。全国で100校もありません。「聾学校」と聞いても、目の見えない子どもが通う盲学校と混同する人も多く、一般の人たちが聾学校を知る機会はほとんどありません。そのため、関心を持つ人が少なく、「暗い」「かわいそう」と偏ったイメージを持たれがちです。しかし、実際はそうではありません。聾学校で学んだことのある私は、そういうイメージを聞くと「違うんだよ」と言いたくなります。聾学校の子ども達も聞こえる子ども達と同じように友達

とケンカもすれば、恋愛もします。授業中におしゃべりして先生に怒られたりもします。聞こえないこと以外は、聞こえる子ども達と変わりはありません。手話で話すというふうにコミュニケーションの方法が違うだけです。

「ありのままの聾学校を知ってほしい。そうだ、聾学校を撮ろう!いや、撮るだけでは張り合いがない。そうだ、ビデオコンテストに応募しよう!」と思い立った私は、「名古屋ビデオコンテストに応募する!」とマジックで紙に書き、毎晩、枕の下にその紙を置いて寝ました。

そして、尾崎くんという聴者にレポーターを依頼し、一緒に豊橋聾学校へ行きました。尾崎くんは聾学校に友達がいて、簡単な手話もできます。幼・小・中・高等部、寄宿舎にお邪魔して、子ど



尾崎君と豊ろうっ子



聞こえないことをどう受け止めていますか?



初代のビデオカメラと「目標」

も達や先生方にインタビューしました。寄宿舎では子ども達と一緒に夕飯を食べ、お風呂に入りました。取材後、尾崎くんが言いました。「取材する前は、心のどこかで、聞こえない子どもはかわいそうと思っていた。でも、かわいそうなの

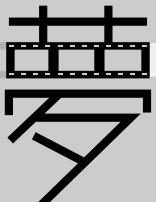
は偏見をもっていた自分の方だった」と。

私は、自分を理解してもらえたよう嬉しくて胸がいっぱいになりました。そして、その時、気づきました。「そうか。聞こえる人は、ただ知らないだけなんだ」と。

撮影はとても楽しかったのですが、編集が大変でした。高1の担任だった先生がパソコンに詳

かったため、毎朝毎晩FAXで分からぬことを質問攻めにして、編集に没頭する日々が続きました。パソコンが止まった時は真っ青。ハラハラドキドキ、ヒヤヒヤの日々を乗り越え、締切日に完成。郵便局に持っていく、目の前で消印を押してもらった時は長いジェットコースターから降りたようで脱力しました。ビデオコンテストでは初めての作品にも関わらず、優秀賞をいただきました。他の作品は撮影や編集の技術が素晴らしいのですが、ハート面を認めてくれたのだと嬉しい気持ちでいっぱいでした。

地元の手話サークルや小中学校でも上映すると、「ろう者に対するイメージが変わった」「聾学校の生徒も普通学校の生徒と変わらないんだね」など、様々な声が私の元に寄せられました。偏見は無知から生ずる。それならば、映像でろう者の日常生活や考えていることを伝えていこう!そして、それを生涯の仕事にしたいと思いました。初めて撮った作品が、映像制作の道に進む決め手となったのです。



音のない3.11

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラみみより情報局まで。

Information

Studio AYA | 検索

DVD「音のない3.11～被災地にろう者もいた～」
発売中です。



上記HPから、学校や企業、団体、地域の自治会などでの防災・災害対策に活用できる「音のない3.11～被災地にろう者もいた～」スタディガイドもダウンロードできます。ぜひご覧ください!

今年の3月11日で、東日本大震災から2年が経ちました。私は震災が起きた11日後、取材で宮城を訪れました。地震直後から、毎日のようにテレビや新聞で東北のニュースが流れ、亡くなつた方や行方不明者の数が日々増えています。辛い気持ちでテレビや新聞を読んでいる時、疑問が出てきました。東北にも聞こえない人たちがいます。しかし、彼らの情報がほとんどありません。彼らは無事なのだろうか。支援の手は届いているのだろうか。私にできることは、東北のろう者の現状や声を社会に伝えることだと考え、宮城を訪れました。何人かの被災したろう者に会い、取材しました。

宮城県岩沼市に住んでいた信子さん(72歳)は地震が起きた時、近くにあるものにしがみつき、揺れが収まるのを待ちました。貴重品をかき集めていた時、近所の人から、津波が来るから避難するように身振りで言われ、ご主人とすぐ車に乗り、家から離れたそうです。その後、津波が来て家が流されました。もし、近所の人が信子さんに伝えなかつたら、信子さん夫婦は津波にのまれ死んでいたとのこと。私は心臓が縮まる思いでした。信子さんが昭和時代から住んでいた家はなくなつておらず、地面のコンクリートや木で間取りがかろうじて分かる程度。信子さんは涙を流し、家があつた場所を見つめました。長年暮らしていた家と日常生活が、突然、津波に奪われた。その心境はどんなものか…。「ごめんね、ごめんね」と信子さんに謝りながら、私はただカメラを回すしかできませんでした。

津波警報や避難の放送が聞こえないために命を落としたろう者も実際にいる事実を知り、や



避難所で信子さんに
インタビューをしました



ろう者の声を届けるために取材を重ねました

るせない気持ちになりました。災害時にろう者が一番困ることは、命と安全を守る情報が得られないことです。津波警報が聞こえない。防災無線放送も聞こえない。避難所に行つても拡声器の声が聞こえず、食料や毛布をどこで入手するのかなどの情報がつかめません。そのため、常に回りを見て一緒に動きます。疲れて眠つてしまつたら、情報から遮断され、食事や救援物資を得る機会を逃してしまいます。常に周りを見ていてはならず、ストレスが溜まり、体調を崩した人もいました。

今の社会はスマートフォンやiPadなど情報通信機器が発達しています。私もスマホに変えた時、その便利さに驚きました。好きな場所で、好きな時に、必要な情報を得ることができます。「便利な世の中になったなあ」と思いましたが、その一方でもどかしい気持ちになりました。これほど科学技術が発達した日本なのに、聞こえない人たちは、今なお津波の警報や防災無線などの情報を得ることができません。そういう社会を作ったのは誰か——。私たち人間です。社会の壁を壊すことができるの誰か——。私たち人間です。命に関わる情報に格差があつてはならない。映像を通して、この問題を一人でも多くの人たちに伝えいこうと全国各地で上映・講演活動をしています。取材で出会った信子さん達が安心して笑顔で暮らせる社会にするために。



家の前に立つ信子さん

夢

は叶えるも

心を撮る職人

PROFILE

いまむら あやこ
今村 彩子映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミミより情報局まで。

私の部屋に1枚のミニチュアサーフボードが飾っています。桜満開の季節に生まれた私の誕生日に、あるサーフボード職人が贈ってくれたものです。

その職人は、2年前に制作した映画「珈琲とエンピツ」の主人公、太田辰郎さんです。太田さんは、20年間勤めていた会社を辞め、6年前に長年の夢だったサーフショップをオープンしました。お店には自分が作ったサーフボードの他にハワイアン雑貨も並んでいます。土日になると、お店はサーファーだけでなく、フラダンスのおばさまやカップル、家族連れのお客さんでぎわいです。初めて太田さんに会った時、「ハイの人!?」と思いました。恰幅のいい体に真っ赤なアロハシャツを着て、とても楽しそうな顔をしていたからです。

ろう者がサーフショップを経営していると初めて聞いた時、「どうやってお客様と話すの」という疑問が真っ先に浮かびました。コミュニケーションをあまり必要としない工場で働いているろう者が、私の周りに大勢いるからです。好奇心がむくむくと頭をもたげてきた私は、太田さんのお店に行ってみました。すると、手話や福祉とは全く無縁そうな茶髪の兄ちゃんが、身振り手振りで太田さんと楽しそうに話していました。ふたりのやり取りは、まるで英語の苦手な日本人と日本語が分からないアメリカ人が、お互いに思いを伝えようと身振り手振りで会話をしているようで、とても新鮮でした。「その会話のやり取りを撮りたい!」と思った私は、太田さんのお店に毎月通



撮影中の1コマ



太田さん夫妻と。初詣にて。



ミニチュアボード

心を撮る職人

うことになりました。取材は1年半に及び、太田さんのお店に泊めてもらうことも度々でした。

ある日、お店の常連のサーファーにインタビューした後、筆談で「何で太田さんを取材しているの?」と聞かれました。私が、「日本で、ろう者でサーフィンのお店を経営しているのは太田さん一人だからです」と答えると、「ええ? そうだったの?」と驚かれました。私は、逆にその反応に驚きました。「ろう者でサーフショップを経営している人、他にもいると思ったの?」と聞くと、「うん、ろう者でサーフィンやっている人多いから」と。私はその発想がとても新鮮でした。一般の人は、お店の経営は聞こえる人にとっても大変なことだから、ろう者が経営しているということに驚きます。しかし、彼は逆に日本でサーフショップを経営しているろう者が太田さん一人だけだという事実に驚いていました。それは、彼がろう者を「生活が大変で苦労している障がい者」として見ていないからだと気づき、嬉しい気持ちになりました。アロハシャツを着たビッグスマイルの太田さんが、彼をそういう思いにさせたのでしょうか。

サーファー仲間たちは、太田さんのことを「たつりん」と親しみを込めて呼びます。彼らは手話はできません。身振りと筆談で話しています。それは、ろう者を助けるために手話を覚えようという気持ちよりも嬉しいことです。「伝えたい」という思いが、体全身から伝わってくるから。

太田さんが作ってくれたミニチュアのサーフボードには「心を撮る職人」と書かれています。「僕はボードを作る職人。今村くんは心を撮る職人。いい映画を撮って欲しい」とプレゼントしてくれたのです。部屋の窓から見える桜を眺めながら、私は改めて思いました。心を撮る職人になろうと。



喜
多

は叶えるも叶

大切なのは、伝えたい想い

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラみみより情報局まで。

映画「珈琲とエンピツ」の制作中に、1通のメールが来ました。送り主は、名古屋市内にあるテレビ番組制作プロダクションの社長で、私の制作活動を応援してくださっている方です。「珈琲とエンピツ」の主人公・太田さんは手話を知らない聞こえる人たちにとっても魅力的な人だから、彼を起用してCMを作り、日本民放連盟が主催しているコンクールのCM部門に応募してみませんか」という内容のメールでした。「面白そう!」私はその話にすぐ飛びつきました。今まで個人で作ってきたので、ディレクターやカメラマンたちと一緒に作ることは私にとって勉強になります。太田さんに会う前の私だったら、迷ったでしょう。とてもいいチャンスだけれど、彼らは手話を知らないからコミュニケーションをとる自信がない…と。しかし、そのとき私は「大丈夫。何とかなる」と思いました。

太田さんはボード職人になるために、サーフショップを訪ねたそうです。技術を教えてもらえないかと。聞こえないから無理だと断られ続けましたが、それでも諦めずに100以上のお店を巡り、ひとりの師匠と出会いました。そして、今に至ります。その太田さんの話に勇気づけられた私は、CM制作に挑戦することを決めたのです。

打ち合わせや口ケの時は「珈琲とエンピツ」のプロデューサーも参加し、手話通訳をしてくれました。編集は、私とディレクターで進めました。何時間もある素材から映像を選び、120秒の長さにします。ディレクターは私と同じ30代の女性で、



山ノ内ディレクターと一緒に
CM編集中



CMの音入れ作業中

筆談や身振りを交えながら作業を進めました。分からぬ時は聞き返しました。それまでは、分かったふりをしてしまい、そのあと聞くタイミングも逃し、話がかみ合わなくなったらどうしようビクビクし、帰宅後、ずっと疲れたということがよくあったからです。そして、ある時、私は心配になってディレクターに聞きました。「私は、『何?』とよく聞いているけれど、大丈夫かな? 筆談、疲れない?」すると彼女は答えました。「逆に聞いてくれた方がいいよ。聞いてくれなかったら、本当に伝わっているのかなと不安になるから。筆談、疲れないよ。同じ女性で同じ映像制作をしているあなたと色々なこと話したいから」と。とても嬉しかったです。その時、気づきました。聞こえる人たちは、筆談は面倒だし、時間がかかるから快く応じてくれないだろうと思っていたのは、私の勝手な思い込み、偏見だったと。聞こえる人の中には、そういう人もいるけれど、皆が皆そうじゃない。伝える方法は何でもいい。話したいという気持ちが一番大切なだけ。



ギャラクシー賞受賞の日。
CM制作の稻垣プロデューサー(右)と
「珈琲とエンピツ」の阿久津プロデューサー

こうしてできあがったCMは、日本民放連盟賞「CM部門」で優秀賞、全日本シーエム放送連盟ACC・CMフェスティバルで「北陸・中部地域テレビファイナリスト」賞、ギャラクシー賞CM部門で入賞と3つの賞をいただきました。受賞はもちろん嬉しかったのですが、私が一番嬉しかったのは、同じ映像制作に関わる仲間たちと身振り、手振り、筆談、声と色々な方法を使って一緒にCMを制作できたことです。相手を知り、相手とつながった時の喜びを味わい、自分の世界が豊かになってゆくのを感じました。私に勇気をくれた太田さんとの出会いに感謝しています。



夢

は叶えるも

新しい壁は新しい世界に踏み出した証拠

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見つづけています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミミより情報局まで。

タイムズスクエアにて



ホテルの屋上にて

今、私は「ダスキン愛の輪基金」の障害者リーダー育成海外研修派遣事業※による研修を終えた若者たちの現在の活動を取材している。研修生のひとり、片岡亮太さんはプロの和太鼓・パーカッション奏者だ。2011年に研修生として渡米し、1年間ニューヨークで研鑽を積んだ。その後もニューヨークを訪れ、音楽活動を続けている。今年3月、ニューヨークに滞在し活動するとのことで、その様子を取材に行った。取材班は私、カメラマン、手話通訳者の3人。機内泊も含めて4泊5日のロケである。私たちは休む暇もなく、時差ボケでぼーっとした頭と、初めてのニューヨークという興奮の中でロケが始まった。すぐに、今までに経験したことのない壁にぶつかった。

片岡さんは全盲で、私は補聴器を外したら全く音のない世界の住人となるろう者。片岡さんは、聴覚から情報を得る。私は、視覚から情報を得る。正反対だ。全盲の方とはコミュニケーションが難しく、筆談もできないため、私にとってとても遠い世界の人たちだった。しかし、片岡さんと私には共通点がひとつある。片岡さんは音楽の表現者であり、私は映像の表現者。同じ表現者としての片岡亮太という人間に興味が出てきた。しかし、片岡さんという人間を知りたいと思えば思うほど、endozaしさを感じた。

私に入る片岡さんの言葉は、通訳者が「手話」に翻訳したもの。外国の映画をその国の言葉ではなく、日本語に翻訳して見ているような感覚で、



ジャズフレンチホルン奏者・山村優子さんとのデュオ「Ajarría（アジャーリア）」としても活動中

とてももどかしかった。できれば私は、片岡さんの言葉を手話に翻訳されたものではなく、日本語で、彼が持つリズムで受け止めたい。でも、私は聞こえない。せめて表情からでもと思って、片岡さんは真っ黒なサングラスをかけていて、顔の3分の1がサングラスで覆われている。目から感情を察したくてもできない。私が片岡さんに感じている距離を、片岡さんは私に対してもっと感じていただろう。私が手話で話した言葉は、通訳者が翻訳した「日本語」として片岡さんの耳に入る。そのため、私の存在を生で感じられないのではないだろうか。私は目の前にいるのに、片岡さんにとっては、いないに等しいのではないだろうかと不安だった。また、アイコンタクトができないため、片岡さんはどのタイミングで話し終えていいのか、話し続けていいのか、手話通訳は追いついていくのかなど、いろいろと気を遣っただろう。

このように、今までろう者を取材してきた時には、ぶつからなかった壁にぶつかった。しかし、それは新しい世界に踏み出したという証拠だ。片岡さんが帰国したら、一人で会いに行こう。そして、思ったことを私の声で伝えよう。片岡さんは文章を音声に変えるノートパソコンも持っているから、私の発音が分からなかったら、ノートパソコンに打とう。そして、片岡さんにもパソコンに打ってもらえば、私はそれを読むことで彼の言葉を知ることができる。お互いに工夫すれば、コミュニケーションができる。そう思うとワクワクしてきた。そして、片岡さんにメールした。

※「ダスキン愛の輪基金」障害者リーダー育成海外研修派遣事業 HP: <http://www.ainowa.jp/>

公益財団法人「ダスキン愛の輪基金」は、「障害のある方の自立と社会参加」を目指し、日本をはじめ、アジアの障害者リーダー育成事業などを実施している。この研修派遣事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に、海外で実地研修の機会を提供するもので、1981年からスタートした。

喜
多I M A M U R A * A Y A K O
は叶えるも

連載

2013.8
Scene 11

PROFILE

いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラみみより情報局まで。

めんどくさいことをなくすのが福祉

ニューヨークでの取材を終え、5月上旬に片岡さんの実家がある三島で会うことになり、パートナーの山村さんも来てくれることになりました。山村さんは目が見え、耳も聞こえます。取材中は、英語の通訳をしてもらったり、道案内をしてもらったりと大変お世話になりました。

三島駅でドキドキしながら待っていると、サングラスをかけた片岡さんと山村さんがきました。「お久しぶりです」と笑顔で挨拶し、喫茶店に入り、片岡さんと山村さんと向かい合って座りました。片岡さんがノートパソコンを出して、イヤホンをつけて入力します。私は画面に映し出された文字を追って、片岡さんの言葉を知ることができました。また、山村さんは比較的口を読みやすいので、内容が分かりました。二人とも、私の声で分かると言うので、声で話しました。私は、ニューヨークの取材で感じたもどかしさや、直接片岡さんの言葉を受け取りたいと思ったことを伝えました。私が話している間、片岡さんは黙ってうなずきながら聞き、山村さんは私の目を見て真剣に聞いていました。

話し終えると、山村さんが言いました。「あの時、私も距離を感じていた。通訳がいる場面で話すのは初めてで、今村さんと通訳者、どっちを見て話せばいいのか分からなかった。通訳者が今村さんの手話を読み取って通訳してくれる。声がするから通訳者の方を見てしまう。でも、今村さんが私を見て手話を話している。私は聞こえるから、声がする方を見てしまう。どっちを見ればいいのかなと戸惑った」と。山村さんの戸惑いは山村さんだけではなく、聞こえる人たちに共通する戸惑いです。私は、「その時は通訳者ではなく、



三島での再会を記念して

話している人を見てね」と言いました。そして、取材中に片岡さんが時々言っていた「見えなくて○○をしてもらわないといけない。めんどくさいんですよ」という言葉が一番心に残っているということも伝えました。「不便」「不自由」という言葉だと重すぎて、こちらが申し訳ない気持ちになって対等な関係を築くのが難しくなってしまいます。しかし、「めんどくさいんですよ」と軽く言われると、「そうだよな。めんどくさいよな」とすごく共感できます。片岡さんは、「めんどくさいことをなくすのが福祉だ」とも言いました。テレビ番組に字幕がついていないから、通訳してもらわないとけません。でも、通訳と画面を交互に見るのはめんどくさい。字幕がつけば、通訳してもらわなくても見られます。病院に行くとき、通訳の手配が必要になり、派遣センターにFAXで申請します。でも、その手間がめんどくさい。病院に専属の通訳者がいれば、医者も助かります。そういうふうに、ひとつひとつのめんどくさいことをなくしていくのが福祉。とても分かりやすく、共感できます。

最後に片岡さんは言いました。「そして、福祉はなくしていくべき」と。「めんどくさいことがなくなれば、福祉もなくなる」なるほど!この考えを私の友人や仲間にも話したいと思いました。山村さんは、最後に「今日会えてよかった。今村さんのことが好きになった」と言ってくれました。私も同感です。直接話すことは、手間がかかるかもしれません。でも、得るものの大ささが全く違います。ニューヨークで感じたもどかしさをそのままにしないで、会いましょうとメールを出してよかった!喫茶店で片岡さんと山村さんと過ごした濃い時間が、心でいつまでも輝いています。



快晴の空の下、三島での演奏を取材しました

夢

タは叶えるも

昭和を切り開いたろう女性たち

PROFILE

いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことにつづっています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミミより情報局まで。

私の映像制作活動が世間で知られるようになった2010年頃、「Lifestyles of Deaf Women」という団体の代表を務めている女性からDVD制作の依頼を受けました。現代の女性の生き方(勉学・留学・就職・転職・結婚・出産育児・趣味等)において、聞こえない女性には様々な課題があります。「Lifestyles of Deaf Women」は、聞こえる女性とも聞こえない男性とも異なる悩みを持つろうの女性が仕事とプライベートを充実させて、自分の人生を創り出していこうと情報発信しています。

依頼のあったDVDの内容は、昭和時代を生きた聞こえない女性の体験を記録としてまとめるというものでした。この相談を持ちかけられた時、私はあまり乗り気ではありませんでした。差別や偏見が多く、苦労の二文字を背負って日の当たらないところで生きてきたという暗く重たいイメージがあったからです。しかし、記録に残すのは大切なことだと思い、制作することになりました。取材で一番印象に残ったのは、大槻芳子さんというろうの女性です。大槻さんはNHK「みんなの手話」(今は「ろうを生きる難聴を生きる」という番組名で放映されています)を作った人です。大槻さんは若い時、私の留学先でもあるカリフォルニア州立大学ノースリッジ校を視察しました。聞こえない学生が聞こえる学生と一緒に学び、ろうであることに誇りをもっている様子を見た大槻さんは衝撃を受けたそうです。帰国後、アメリカで受けた衝撃や感想を手紙に書いて、友人であるNHKの職員に送りました。すると、その友人から「聴覚障害者向けの番組を作るのに、ぜひアドバイスが欲しい」と依頼があり、番組制作に



大槻芳子さん

関わることになりました。そして、自らキャスターも務めました。それだけではなく、ろう者や手話のことをより多くの人たちに知ってもらおうと手話で踊って歌うライブを企画し、ドレスを着て全国を回りました。そんな彼女の活動を応援する人もいれば、批判する人もいました。「私はいつも何かをする度に、拍手喝采と批判の銃弾を浴びます」と、大槻さんは面白おかしく話して下さり、とても痛快でした。もちろん、明るい話ばかりではありませんでした。何人かを取材する中で、自由に結婚も出産もできなかったこと、子どもが生まれないように親が本人に内緒で手術を受けさせたという話も聞き、ショックを受けました。今の社会ではとても考えられません。また、昔は運転免許などの資格も取ることができず、車の運転さえも許されませんでした。今の若いろう者は自由に結婚をし、働いて車を買い、運転しています。差別も少なくなり、手話で話していてもジロジロと見られることはほとんどなくなりました。こういう今があるのは、聞こえない先輩たちが声を上げ、生活向上のために一生懸命運動してくれたからです。多くの若いろう者はそのことを知りません。ろう者の言葉である手話で記録に残し、苦しい時代を明るく乗り越えてきた先輩たちの生き方を伝えていきたいとDVD「昭和時代を切り拓いたろう女性からあなたへ」(2011年)を制作しました。ろう者の歴史を知ることは自分のルーツを知り、未来への指針となります。今の社会は昔と比べれば理解が進んだものの、まだまだ壁がたくさんあります。私は映像で伝えることによって、社会の壁をなくし、皆が笑って暮らせる世の中にいていきたいと願っています。それが先輩への恩返しとなり、未来の子ども達へのバトンとなるからです。

DVDに登場する女性たち

藤田孝子さん
松山善三監督作品・高峰秀子出演の映画「名もなく貧しく美しく」のモデルになった人。岩田恵子さん
娘を育てながら、PTA活動もこなし、ろう高齢者の特別養護老人ホーム「ななふく苑」施設長も務める。

夢

は叶えるも

聞こえない妻が働き、聞こえる夫が主夫をする

PROFILE



いまむら
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間
体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミミより情報局まで。

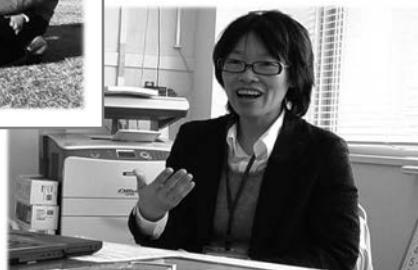
「聞こえない女性と聞こえる男性が結婚し、息子を育てています」と聞くと、聞こえない妻が主婦として育児をしているのだろうと想像する人がほとんどだと思います。私が取材をしている夫婦、真里さんと源さんは逆です。真里さんが働き、源さんが育児休暇をとり、1年間主夫として家事と育児をしました。

真里さん、源さんとの出会いは、DVD「ユニバーシティライフ」制作のため群馬大学を取材した時です。同じ年ということもあり、仲良くお付き合いをさせていただいています。そして、2年前、源さんが育児休暇をとったと聞いてびっくり。おもしろい!と思った私はカメラ片手に、ふたりに会いに群馬へ行きました。見るもの全てが新鮮で、夢中でカメラをまわしました。ある朝の様子をご紹介します。

朝6時に起床。真里さんはNHKのラジオ体操の番組を見ながら、ラジオ体操をします。その後、着替えて仕事の支度をします。その間、源さんは台所で卵焼きを作っています。カメラに向けると「今は、嫁さんの朝ご飯を作っている。その後は共蔵(息子)の朝ご飯。終わったら、嫁さんのお弁当を作らないと」と答えました。真里さんは源さんから朝ご飯を受け取ると、自分も食べながら共蔵くんに食べさせます。お弁当を作り終えた源さんは「お弁当を忘れないように」と真里さんに手話で言い、洗濯を始めます。共蔵くんが食べている様子を見ながら、真里さんは家庭ゴミをまとめます。源さんは食べ終わった共蔵くん



源さん・真理さんファミリー



「ユニバーシティライフ～ろう・難聴学生の素顔～」(2006)に出演している5人の卒業生の現在を追ったドキュメンタリー。真理さんも登場します。

の服を着替えさせ、真里さんにバトンタッチ、ペランダで洗濯物を干し始めます。その間、真里さんは共蔵くんをひざに乗せて手話で絵本を読みます。共蔵くんはまだ手話は分かりませんが、絵と手話を交互に見ています。源さんは「嫁さんがいる時間はすごく貴重。皿洗いや洗濯物干し、風呂洗いに専念できるから」と笑っていました。そして、ゴミ袋を抱えて出勤する真里さんを、源さんが洗濯物を干しながら見送ります。初めて見る光景でした。妻が夫を見送るのは見慣れた風景ですが、こういう風景もたくさん見られるといいなあとと思いました。

源さんが育児休暇をとると夫婦で決めた時、夫の職場や夫の両親は驚いたそうです。育児休暇をとることで職場の評価が下がるのではないかと心配だったと、源さんのお母さんが話してくれました。職場の上司からも「育児休暇をとるのは、あなたの権利だからいい。でも、今までで初めてのことだ」と言わされたそうです。

1年間の育児休暇が終わる頃、源さんが話してくれました。「妻は障害者で自分は健常者。妻が働いて、僕が主夫と聞くと世間は珍しいと思うだろう。でも、こういう夫婦がいてもいいと思う。いろんな人がいて、いろんな生き方があると認められる社会になれば、誰もがもっと住みやすい社会になると思う」。その言葉に深く共感した私は、今もこの家族を取材しています。職場に復帰した源さんは、夫婦で子どもの成長を見守りたいと、今日も保育園へ共蔵くんを迎えて行きます。

夢

夢は叶えるも

連載最終回



夢を叶える5つの方法

PROFILE



いまむら あやこ
今村 彩子

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2~3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことを見ています。
<http://studioaya.com/>

ご意見ご感想をお待ちしております。
ボラミンより情報局まで。

昨年の9月号から始まったこのエッセイも、今月で最後となります。最初のエッセイで夢を叶える5つの方法を織り交ぜて書くと言いましたが、出会った人たちが魅力的で、その人たちのことを知つてもらいたくて後回しにしていたら、2つ目までしかお伝えしないまま最終回を迎えてしました。まだかまだかと期待させてしまっていたら、本当にごめんなさい。ここで13年間制作を続けてきた私が、知らず知らずのうちに実践していた5つの方法を紹介します。



ことばで伝える



紙に目標を書いて、周りの人に宣言する。

作品を作る時、「○月に完成させる!」と紙に書いて、見えるところに貼っています。そして、ホームページやブログでは「○○を撮っています」と載せ、講演でも「次の作品は○○を撮っています」と話しています。もし、誰にも言わなければ、辞めようかななど弱気になった時、簡単に諦めることができます。でも、大勢の人に言い続けていると壁にぶつかっても、「うーん!ここは有言実行だ!」と踏ん張れます。



人を巻き込む。それもできるだけ大勢。

ドキュメンタリーは音の編集やナレーター、デザイナーなど多くのスタッフや仲間の力が合わさって完成します。最初はお金がないので、全て自分でやっていました。しかし、作品を作り、発表していくことで自分の目指すレベルが高くなり、それに見合った技術が必要となっていました。「よし、その分野が得意な人にお願いしよう!」友達がデザイナーだと聞くと、早速会ってチラシのデザインをお願いしたりして、仲間が増えていきました。こういうふうに人を巻き込むと、その人がまた他の人を紹介してくれて、どんどんつながっていきます。



映像で伝える



夢を実現させている人(プロフェッショナル)に会う。

私は何人かの映画監督やプロデューサーが書いた本を読み、手紙やメールをだして実際に会つて話を聞きました。自分の夢を実現させている人が目の前にいるだけでも感激なのに、私の話を聞いて励ましてくれる。これはもうすごく元気をもらいます。その人が発する一言一言は、苦労した経験からくる言葉だからこそ、ずっと重みがあり、私も頑張ろうと心が引き締まります。



技術を磨く。学ぶ。

私は会社に属さず、独立して制作をしているので、先輩や上司から学ぶ機会がありません。時々、某テレビ局のカメラマンの勉強会に参加させてもらったり、ディレクターに作品を見てもらって、アドバイスをもらったりしています。



感謝する。

カメラマンの勉強会に参加させてもらったら、その後「○○さんに教えてもらった方法で撮つたらうまく撮れました。どうもありがとうございます。また参加させてください」と感謝の気持ちを伝えています。私が13年間映像制作を続けることができたのは、取材に協力してくれた方、映画を見に来てくれた方、スタッフ、そして家族や仲間など大勢の人たちのおかげです。私はこれからも映画を撮っていきます。おばあちゃんになるまで!映画で誰もが住みやすい社会にしていくことが、応援してくれているあなたへの恩返しとなり、未来につながるから。